51th
東京城東ロータリークラブ週報
国際ロータリー第2580地区

2016. 10. 3 第2358回例会

感謝の心で 奉仕と親睦を

東京城東ロータリークラブ会長 細谷 貞治

例会日 毎週月曜日 12:30 ～ 13:30
例会場 〒130-0013 墨田区錦糸1-2-2 TEL 5611-5511
東武ホテルレバント東京
事務局 〒130-0013 墨田区錦糸1-1-5
TEL 5637-4605 FAX 5637-4611
事務局 天尾 文（伊藤）
E-mail jyoto@club.email.ne.jp

会 長 細谷貞治　副会長 阿部 豊
幹 事 兒玉正行　副幹事 江波戸健治
会報委員長 池永憲明

RI会長
ジョンF.ジャーム
第2580地区ガバナー
上山昭治
第2580地区幹事
田中永二
ガバナー補佐：鈴木秀史
(東分区担当)
東分区幹事 ：瀧澤一郎
東分区副幹事：鈴木正名

人類に奉仕するロータリー

本日の卓話

「 ガバナー公式訪問を控えて 」

東分区ガバナー補佐
鈴木秀史 氏

2016/9/26（月）
「 これからの都政について 」
都議会議員
川松 真一朗 氏

ニコニコボックス

○川松先生、本日の卓話よろしくお願いします。
細谷貞治君・兒玉正行君・奈良康司君
青木桂三君・山田 昇君・池永憲明君
江波戸健治君・山﨑富士夫君

○本日のクラブフォーラム、ご出席よろしくお願い致します。 奈良康司君

○第２班ホームミーティング、美味しく楽しく参加できました。江波戸さん、今井さん、ありがとうございました。
伊藤国雄君・上條隆志君

小計￥32,000.- 累計￥594,000.-

※次週 10／10(月) は、「祝日（体育の日)」のため、例会はございません。
※次々週 10／17(月) は、東分区 IM 開催のため、時間変更（13：30 ～ 食事無し）となります。

2016年9月26日 例会報告

点 鐘
ロータリーソング 『それでこそロータリー』
ゲストスピーカー 1名
ゲスト及びビジター 1名
会員出席状況 50名中41名(出席率82.00%)
前々回訂正出席率 100%

- 10月の受付当番 -
重田君/篠田(秀)君/杉田君/鈴村君/須田君

次回の卓話 (10/17)

13：30 ～ 14：00
「 米山奨学月間 」

米山奨学生
朴 昭泳 さん

内容充実の為に、皆様からの投稿をお待ちしております！

― １０月お祝 ―

出席祝
小野君、石川君

会員誕生祝
山田（昇）君

奥様誕生祝
津覇君、江波戸君
岡本君、上條君
以上、会員令夫人

結婚記念日
岡本君、中村君、田島君
宮﨑君、阿部君、杉田君

皆様、おめでとうございます！

青少年交換学生ミゲル君 歓迎会

○１０月の行事予定

10月　3日(月)　11：00～　第３回理事役員会
12：30～　**第２回鈴木秀史ガバナー補佐訪問**
13：30～　第２回クラブ協議会

10月10日(月)　**祝日（体育の日）**

10月13日(木)　15：00～　第2580地区
第３回地区研修会
（ﾊｲｱｯﾄﾘｰｼﾞｪﾝｼｰ東京）

10月17日(月)　**13：30～　例　会（食事無し）**
【東分区ＩＭ】
14：00～　登録開始
14：30　点　鐘
「企業人のための危機管理」
消防防災危機管理アドバイザー
サニー神谷　氏
パネル発表
「ロータリーの明日を考える」
18：00～　懇親会

10月22日(土)　**菊まつりコンサート**
（亀戸天神社）
13：00　集　合
13：30～　受付開始
14：00　開　会

10月23日(日)　11：00～　米山学友会主催
米山奨学生ピクニック
（夢の島植物館）

10月24日(月)　**【ガバナー公式訪問】**
9：30～　親睦・ＳＡＡ集合
10：30　ガバナー他ご来賓、
会長・幹事と打合せ
10：45　会員集合
11：15～　第３会クラブ協議会
12：30～　例会(ガバナー卓話)

10月25日(火)　15：00～　第2580地区
クラブ奉仕委員長会議
（グランドパレス）

10月26日(水)　**東分区懇親ゴルフ大会**
（茨城ゴルフクラブ）

10月31日(月)　**特別休会**
15：00～　第2580地区米山
奨学生・三者懇親会
（ニューオータニ）

東京城東ロータリークラブ
2016 - 2017 年度
第 1 回ホーム・ミーティング報告 ②

◎リーダー、○サブリーダー（順不同・敬称略）

【第 2 班】

日　時　9 月 21 日（水）　18：00 ～

場　所　ベルモントホテル・ステーキハウス柳鳳

参加者　宇都宮・大塚・大鳥居・岡本・小野
上條・◎今井・○江波戸

ゲスト　兒玉幹事・杉田

今井リーダーがメンバー紹介、開催挨拶を行い、岡本会員が乾杯の音頭をとりました。

台風 16 号が過ぎた翌日の開催で、天気に恵まれたこと、豊洲の新市場問題も話題になりました。大鳥居会員からは手帳の活用法、保管方法等、実用的な話が聞けました。

また、兒玉幹事から第七消防方面関係の活動、実体験、裏話。

今回のホーム・ミーティングは、メンバー全員参加で始めから終わりまで盛り上がりました。

閉会の挨拶は、大鳥居会員が行いました。

兒玉幹事・杉田会員、第 2 班のホーム・ミーティングにご参加いただき、ありがとうございました。

（江波戸会員　記）

【第 4 班】

日　時　9 月 15 日（木）　18：00 ～

場　所　割烹「多じ万」

参加者　◎須田、○田島、鈴木（良）、津覇
大鳥居、鈴村（書記）

1．内容

（1）非常に和やかな雰囲気の中、ホーム・ミーティングが厳かに開催された。新会員である鈴村会員が大先輩を前に緊張した面持ちで、自己紹介から始まり、大鳥居会員から亀戸天神社周辺の町の移り替りで会員の皆様と共に思い出話に会話が弾みました。

（2）鈴木会員も津覇会員もホームミーティングは毎回出席されているとの話も伺い、東京城東ロータリーの歴史の中で、素晴らしい会員との出会いや繋がりを商売の枠を超えてされているのが判り深く感銘を受けました。

（3）また鈴木会員から俳句のお話も頂戴致し、田島夫人から俳句集も拝見させて頂くなど非常に勉強にもなりました。亀戸天神社では菅公をしのび、宮中で行われていた和歌・連歌などを詠む“残菊の宴”もあるそうで高尚で素晴らしい世界の話も伺う。

（3）また“多じ万”様の素晴らしくそして心の籠った料理にも舌鼓を打ち、盛況に会が終了。

2．総括

（1）東京城東ロータリークラブの“感謝の心で奉仕と親睦を”とのスローガンさながら、諸先輩方の温かく、そして仲間としてお話頂いた事に素晴らしい会に参加させて頂き感謝申し上げたい。

（2）ロータリークラブの“職業奉仕の精神”について、自分はまだまだ不勉強であるが本日ホームミーティング出席の大先輩から、商売の枠を超えた会員との繋がりや俳句の会等の話を伺い少し理解出来た気が致しました。これからもこの様な機会があると良いと思います。

（鈴村会員　記）

▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽

ＲＩニュース：2016. 9. 6 ～その１

▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△

ポリオ撲滅に挑むトライアスロン選手①

1978 年、私はムンバイで生まれました。母子家庭という環境の中、母は家事労働者として生計を立てていました。生後 6 カ月が経ったある日、私はポリオに感染し、身体がまひ状態となってしまいました。インドでは、障害者が 18 歳まで生きられる確率は非常に低いと言われています。私の面倒を見ることができなくなった母は、私を児童養護施設に託しました。幼かったので当時の記憶はほとんどありませんが、その頃の生活レベルはとても低いもので、自分の人生が良くなるどころか、不治の病に近いポリオを克服して自立できるなんて考えてもみませんでした。

当時インドでは、私を含む大勢の人びとに、ポリオウイルスを予防する 2 滴の経口ワクチンさえも行き渡らない状況でした。人は健康であるからこそ働くことができ、働くからこそ結婚もできるのです。けれど、こんな単純な常識も私には程遠い世界でした。そのような日々を過ごしていた頃、私の人生を再び大きく変えることが起こりました。

3 歳のある日、私はブルース・デントラーさんとその妻アンさんの夫妻に養子として引き取られたのです。3 歳になって間もなく、私は米国ワシントン州スポケーンへと移り住むことになりました。それから数年間、身体の姿勢を真っすぐに整えるため、腰や膝、背中の手術を繰り返しました。そしてついに、ギプスと松葉杖を使って歩けるまでに回復しました。両親は、私がほかの兄妹と同じ生活が送れるようになることを期待し、身体の障害のせいで人生でやりたいことを制限されてはいけないということを教えてくれました。この家庭の中で私のすべきことは、家事と学校の宿題でした。本当に幸せな幼少期だったと思います。

私は人と競い合うことが大好きだったので、学校でのディベートからピアノまで色々なことに打ち込みました。高校卒業後は大学進学のため、シアトルへと移り住みました。シントン大学ではビジネスを専攻し、在学中はホワイトハウスや IBM でインターンとして働く機会にも恵まれました。また、スペイン留学も果たし、ギプスと松葉杖でヨーロッパをバックパッカーとして旅した経験もあります。大学卒業を機にニューヨークへと移り、経営コンサルタントの職を得ることができが、その後は MBA を取得して結婚もし、現在は多国籍企業である大手保険会社に勤めています。充実した豊かな人生を送る権利を身体の障害などに制限されるべきではないということを、私の経験を通して多くの人びとに知ってもらえたらと思います。

ハンドサイクルとの出会い

ニューヨークに住んでいたころ、私はディック・トラウムさんという方と出会いました。彼は 1976 年のニューヨークシティマラソンを完走した初の義足ランナーです。また、スポーツをする障害者に無償でトレーニングやサポートを提供する非営利団体『アキレスインターナショナル』を立ち上げた人物でもあります。私はディックさんからハンドサイクルと呼ばれる、両腕で車輪を回して進むリカンベント三輪車をいただき、ディックさんはマラソンに向けてトレーニングを積むよう私の背中を押してくれました。これをきっかけに新たな世界に足を踏み入れた私は、ハンドサイクルで 2006 年のニューヨークシティマラソンを完走することができました。

次に私が挑戦すると決めた競技は、女性で、しかも車いすのアスリートにとっては不可能であると考えられていたものでした。その無謀とも言える競技こそ、アイアンマン・トライアスロンだったのです。私はトレーニング内容をトライアスロン向けに切り替え、そして 2012 年にハワイ州コナで行われる世界選手権大会への切符を手にしたのです。

アイアンマン・トライアスロンは私のような車いすアスリートでも、水泳 3.86km、自転車走行 180.25km、車いす走行 42.16km が必須である上、全てのステージを厳しい制限時間内に完遂することが求められる競技です。アイアンマン・コナ大会では、自転車走行のステージを競技スタートから 10 時間半以内という制限時間で完走することができませんでした。とても残念でしたが、これよりも辛い挫折をその前にもたくさん味わってきました。この悔しさこそが私の決意を確固たるものにし、翌年の大会でリベンジしようと心に誓ったのです。